公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2018年
9月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆『関西ヤングバーダーズ交流会』が開催されました！・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
◆探鳥会訪問記
～ツバメのねぐら入り特集～・・・・・・3
・伊師浜海岸ツバメねぐら入り探鳥会（茨城県）
・渡良瀬遊水地ツバメのねぐら入り観察会（栃木県支部）
・お試し入会付き　六郷土手ツバメのねぐら入り観察会（東京）
・揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会（三重）
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・8
（2018年7月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・10
・秋期開催分「初心者向けバードウォッチング」の広報をしています
・冬期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・11
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・12
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆『関西ヤングバーダーズ交流会』が開催されました！

近畿ブロック初の若手バーダーの交流会『関西ヤングバーダーズ交流会』が開催されました。交流会の当日の様子をご報告いたします。

【日時】2018年7月28日（土）13時00分～17時00分
【場所】大阪ガスNEXT21ビル　（大阪支部事務所所在ビル　大阪市天王寺区）
【参加者】49名（うち会員31名、一般18名）
【スタッフ】11名（大阪支部、奈良支部、ひょうご、京都支部、和歌山県支部、滋賀、福井県）
【講師】大西敏一氏（大阪支部）
【オブザーバー等】3名（大阪支部2名、財団1名）

■開催までの経緯

ここ数年で、近畿ブロック内でもヤング探鳥会などの若い方向けの探鳥会を開催する支部が増えました。初心者向け探鳥会や女性向け探鳥会と共に支部活動を活性化する動きの一つとして、各支部とも熱心に取り組んでおられます。

また、「探鳥会リーダーズフォーラム」や近隣支部間での合同探鳥会などを通じて各支部の若手リーダー同士が情報交換する機会も増え、近畿ブロック内の若手バーダーが所属支部や会員・一般の枠を越えて広く交流したり勉強したりする場を持ちたいという機運が高まったそうです。

スタッフとして参加した各支部の若手リーダーは近畿ブロックの支部のほか福井県からも加わって11名。メーリングリストを通じて企画を練り、初の開催となる今回は、

① 40代以下の若手バーダーを対象に
② 交通や会場の利便を考慮して大阪で
③ 基調となる講演会と交流会のボリュームが半々の内容で実施
④ 各支部支部報・ホームページをはじめツイッターやフェイスブックでの広報を展開

といった方針で実施に向けて準備をされたそうです。

■交流会当日の様子

入念な広報と同じぐらいにロコミが威力を発揮して、当日の参加者数は49名。スタッフ等関係者を含む総数64名と、講演会会場・交流会会場ともに入りきれないほどの盛況ぶり

で、スタッフは嬉しい悲鳴を上げていました。近隣府県のみならず、福井、東京、神奈川からの参加者もあり、関心の高さがうかがえます。

大阪支部幹事で野鳥研究家の大西敏一氏による講演会「野鳥を読む・知る・楽しむ」は、古典的なものからバイブル的存在まで数多くの野鳥図鑑やフィールドガイドを紐解きながらバードウォッチングや野外識別の歴史や変遷をたどる大変興味深い内容で、参加者は大西氏の快活な語り口に引き込まれて熱心に聞き入っていました。

▲満席の講演会会場

続く交流会では大西氏への質疑応答に始まり、あちこちで小さな輪ができて和気あいあいと個別の交流がなされていました。バードウォッチングの経験にまつわる話から、気になる探鳥地や鳥の話、探鳥会の運営について等話の内容は多岐にわたっています。会員でない方が 18 名いらっしゃいましたが、すっかり場に溶け込んで話が盛り上がっているのが印象的でした。

参加者の年齢層は 20 代、30 代、40 代がそれぞれ 3 割程度だったそうです。参加申し込み時のアンケート（選択肢、複数回答可）によると実に 7 割の方が参加のきっかけを「交流の輪をひろげたいので」とお答えくださったとのこと。交流会での活発な皆さんの様子を拝見して、こういった場が切望されていたのだな、と実感しました。

台風 12 号が近畿に迫りくる中、交通機関の運休などが見込まれたため、残念ながら予定されていた二次会やスタッフの振り返りは中止となりました。次の交流会への期待の言葉をスタッフにかけながら、皆さん名残惜し気に解散されました。

▲全員で記念撮影

▲大西氏への質問で盛り上がる交流会

■今後に向けて

「いったいどれだけの人が来てくれるのか」という不安を見事に払拭する盛況のうちに開催でき、若い世代の交流の場を作れたことにスタッフの皆さんは手ごたえを感じておられました。同時に多くの課題が見えてきたとも。交流の形は何がいいのか、運営担当は持ち回りにするのか、費用はどうやって捻出するのか、支部活動の中でどう位置づけるのか･･･。「議論すべき点は多くありますが、この第一歩を次の一歩に繋げられるよう、スタッフで丁寧に振り返ってみます」と口々におっしゃっていました。

（普及室／浅野綾子）

◆探鳥会訪問記　～ツバメのねぐら入り特集～

伊師浜海岸ツバメねぐら入り探鳥会（茨城県）

【日程】2018 年８月 11 日（土）
　　17 時 00 分～19 時 30 分
【場所】花貫川河口付近（茨城県日立市）
【天候】曇りときどき雨
【参加者】48 名（うち一般 41 名）
【リーダー】３名

■探鳥会概要

　この探鳥会は、これまでも支部で開催されておりましたが、今年は初めて財団の「ツバメのねぐら入り観察会のご案内」で広報させていただきました。

　ツバメのねぐらが見られるのは、交通量の多い国道沿いにあるヨシ原。まわりには田んぼが広がり、夕方は田んぼで食べ物を探すツバメやスズメが多く見られました。昨年は 15～20 名ほどの参加者だったそうですが、今年は 48 名の参加がありました。ご近所の方やご家族連れのほか、東京など遠方からも来られていました。

　また、ツバメを待つ間には財団スタッフがツバメグッズの販売をさせていただきました。

■探鳥会の様子

　昨年も参加したというリピーターの方が何名かいる一方、ツバメのねぐら入りを見るのも探鳥会に参加するのも初めてという方もいました。ツバメや探鳥会の流れについて丁寧に説明があったので、初心者の方も参加しやすい雰囲気でした。また、ツバメや茨城県内のツバメのねぐらについてまとめた紙が配られ、より理解が深められました。

　ねぐらとなるヨシ原にはまずはスズメが入り、その後にツバメがやってくるとのこと。それまで時間があるので、双眼鏡の貸出やツバメグッズの販売を行いました。グッズはクリアファイルやてぬぐいが人気で、完売してしまいました。

　ツバメが集まり始めると、すかさずリーダーが望遠鏡を合わせ観察を促します。ヨシ原の上を舞うツバメの姿に、大きな歓声があがっていました。

「いつもこの道を通っているのに気がつかなかった！」
という方が何名もおり、意識したことがなかったというヨシ原が、ツバメたちの大切なねぐらになっていることに驚いていました。お家にツバメの巣があったという方が
「この中にうちで育ったツバメがいるんだなぁ」
と感慨深げに見上げる姿も印象的でした。

▲観察会の様子

■まとめ

　参加者はパンフレット「ツバメのねぐら入り観察会のご案内」を見ての参加が多いようで、探鳥会案内をお送りする効果を感じました。

　参加者が多い中でも終始とても和やかな雰囲気で、リーダーや参加者同士がわきあいあいと会話しながらの探鳥会でした。近くに住む方が
「近くにこのような場所があって嬉しい。」
「これからは意識してこの道を通ろう。」
と話していて、身のまわりの野鳥や環境に目を向けてもらう、いいきっかけになったと感じました。

（普及室／嶋村早樹）

渡良瀬遊水地ツバメのねぐら入り観察会（栃木県支部）

【日時】2018 年 8 月 18 日（土）
　　17 時 00 分～19 時 00 分
【場所】渡良瀬遊水地（栃木県栃木市ほか）
【天候】晴れ
【参加者】48 名（うち一般 28 名）
【リーダー】4 名

■探鳥会概要

ラムサール条約登録湿地である渡良瀬遊水地でのツバメのねぐら入り観察会は毎年人気があり、今年も昨年同様、定員 50 人の事前申込制で行いました。今年は財団で観察会での販売を想定したグッズを制作したことから、観察会でツバメグッズの販売をさせていただきました。

■探鳥会の様子

開催一週間前にねぐらの場所が変わり、開催前日までリーダーの方が毎日のように下見に通って広い渡良瀬遊水地の中、ねぐらの場所やツバメの集まり具合を確認していました。

当日の受付は藤岡遊水地会館の駐車場。時間に余裕をもって来られる参加者が多く、開始まで時間がたくさんあったため、一定の参加者が集まるたびに複数回、マイクで配布物についての説明をされていました。その時に販売物についても案内していただき、財団よりツバメグッズの販売をさせていただきました。用意した販売物は「遊び箋 つばめ・すずめ」「刺繍ワッペン つばめ・すずめ」「クリアファイル ツバメ図鑑」「日本野鳥の会×夜長堂手ぬぐい つばめ」「つばめかんさつノート」の 5 種と、寄付グッズの「バードメイト」。釣銭に困らないよう、価格は 300 円、500 円、1000 円に設定してあります。

観察会の最初の挨拶の際には、直前にねぐらが移動していたことから、今日もねぐらが移動した場合は見られない可能性もあることを予め伝えていました。

参加者は各自車でリーダーの車に続いて遊水地内の駐車スペースまで移動します。そこからさらに観察ポイントまで 1km ほど歩いて移動し、そこでツバメが集まってくるまでしばらく待ちました。

待っているうちに日が沈み、空が真っ赤に染まり始めました。なかなかツバメの姿を見られなくても、みなさん渡良瀬ならではのヨシ原に吹き抜ける秋風と美しい夕焼けを楽しんでいるようでした。集まり始めのツバメは数が少なく、参加者も「このくらい？」といった感じでしたが、そのうちに数万羽のツバメが乱舞し始めます。広大なヨシ原の渡良瀬遊水地では、見る方向が一方ではありません。リーダーが、前方だけでなく、山の見える方や参加者の頭上上空、水面近くなど、特にツバメの集まっているところを伝えると皆さん熱心に観察しては驚きの声を上げていました。

また、ツバメを待っている間や観察中にも自由に商品の購入ができるよう、観察ポイントでも再度、販売物を広げさせていただきました。

▲観察の様子

■参加者の声

50 代男性：スタッフの方から日によってツバメの集まる場所が変わったりすると聞き、今日はどうかなぁと思っていたけど、スゴイ数のツバメをバッチリ見られたのでよかった。下見してくれたスタッフの方に感謝です。

■まとめ

参加者の満足度は高いように見受けられ、非常に雰囲気の良い観察会でした。待ち時間での配布物の説明の時から、参加者の興味を引き付けるような説明がされ、入会や販売の案内を複数回しても押しつけがましく感じさせません。くすっと笑いが起きたり、せっかくだから何か買おうかという雰囲気になったりと、あっという間に参加者の気持ちは引き込まれているようでした。ねぐら入り観察会だけに、販売物は刺繍ワッペンと遊び箋のつばめ、クリアファイル、つばめかんさつノートが人気で、バードメイトはツバメヒナよりも親ツバメのデザインが人気でした。　　（普及室／大久保明香）

お試し入会付き　六郷土手ツバメのねぐら入り観察会（東京）

【日程】2018 年８月 18 日（土）
　　17 時30 分～19 時 40 分頃
【場所】多摩川河川敷（東京都大田区）
【天候】晴れ
【参加者】13 組 15 名
【リーダー】８名
【お試し入会】13 名

■新企画「お試し入会付」探鳥会

日本野鳥の会東京では、今回、初めてツバメのねぐら入り観察会を開催しました。

このフィールドでは、財団が過去３年間、ねぐらの観察会を行っており、その結果から、ツバメのねぐら入り観察会は大変多くの応募があり、特に初心者の方に人気があることが分かっています。

そこで、今回の観察会では初心者を対象とすることを銘打ち、参加費を１組 1,000 円＋参加者１名につき 200 円に設定。「お試し入会」をセットにして参加者を募集するという新しい試みとなりました。

探鳥会案内のパンフレットに「今回参加された方には半年間、1,000 円で支部報をお届けします」と明記して参加者を募集した結果、事前に 82 組 144 名の応募がありました。

そのなかから抽選をして 17 組 27 名が当選、当日キャンセルなどもあり、結果的には 13 組 15 名の方が参加され、全組がお試し入会されました。

■探鳥会の流れ

参加者は 17 時半までに観察場所の最寄駅に集合し、スペースのある近くの神社に移動しました。そこでお試し入会の手続きと、資料の配布、リーダーのあいさつなどがあり、その後 20 分ほど歩いて観察場所へ移動しました。日没時刻を挟んで１時間半ほど観察し、19 時半過ぎに終了。駅まで移動して解散となりました。

■夕暮れ時の観察は見どころいっぱい！

観察場所の川辺に着くと、目の前の干潟に数羽のメダイチドリやアオアシシギ、コサギやアオサギなどが見つかりました。ほとんどの参加者は、シギ・チドリ類はもちろん、サギ類もじっくり見るのは初めてとのことで、どの鳥にも興味津々の様子でした。

日没時刻に近づくと、徐々にツバメがヨシ原の上空に集まり始めました。しかし、ヨシ原までは距離がありましたので、肉眼では見ることができず、参加者の多くはツバメの存在に気づきません。そこで、リーダーが望遠鏡でツバメがいる場所をあわせて見せると、
「うわっ！」
と声に出して驚いていました。

▲ねぐらまで距離があるので、望遠鏡が大活躍

そのうちに徐々にツバメの数が増えていき、空高く無数のツバメが飛び交う様子に歓声が上がっていました。

観察の途中、リーダーから、水の入った小さなポリ容器が配られました。これは、ツバメの体重と同じ 18ｇの重さになっていて、ツバメの重さを実感してもらおうという工夫です。参加者のみなさんは
「こんなに軽いんだ！」
と、驚いていました。

▲水の入った容器。重さはツバメと同じ 18ｇ。

日が落ちて、ヨシ原にツバメがすっかりおさまったころ、空には星が瞬き始めました。ここからは「星のソムリエ」の資格を持つリーダー

の出番です。宵空に金星、木星、土星、火星が同時に見える時期でしたため、望遠鏡を使って惑星の観察をしました。専門家の解説を聞きながら、土星の輪まで見ることができました。

また、少し離れた場所で花火大会があり、遠くのビルの谷間に打ち上げ花火が見えました。ほかにも、頭上を飛び交うコウモリや美しい夕焼け空なども見られ、日没前後の景色の移り変わりをゆっくり楽しむことが出来ました。

■まとめ

お試し入会がセットとはいえ、果たして1,000 円を超える参加費で参加者が集まるか？という心配は杞憂で、応募者数は、過去に同じフィールドで同様に広報した、無料のツバメのねぐら入り観察会（財団主催）と変わりませんでした。

広報の時点できちんと説明されていたことからか、当日の入会の手続きはスムーズに進んでいました。

壮大なツバメのねぐら入りの光景はもちろんですが、それ以外にも見どころが満載の探鳥会を、皆さん十分に楽しんでいました。

お試し入会をされた方の今後の動向が楽しみです。

（普及室／江面康子）

揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会（三重）

【日程】2018 年 8 月 18 日（土）
17 時 00 分～19 時 15 分
【場所】揖斐川（三重県桑名市）
【天候】晴れ
【参加者】25 名
【リーダー】２名

■探鳥会の概要

揖斐川は、岐阜県と三重県にまたがって流れる一級河川。その流れは途中で、木曽川、長良川と並行しており、このあたりは広大な低湿地帯となっています。今回のツバメのねぐら入り観察会は、三重県にある揖斐川下流部、水田地帯に囲まれたヨシ原で行われました。

日本野鳥の会三重がこの観察会を始めたのは、今から約 10 年前。開催当初は、参加者も少なく数名という時期がありましたが、近年ではツバメのねぐらの認知度があがり、参加者が増えてきたそうです。昨年は 40 名程度で、はたして今年度は何人の方が参加されるのかが注目されていました。その一方でツバメの数は、10 年前の２万羽に対して近年数が減り、昨年は 5,000 羽と少し心配な要素もあるようでした。

■観察会がスタート

17 時に多度地区市民センターの駐車場に集合し、参加者が自家用車で集まってきました。この日集まったのは 25 名と昨年に比べると少なめの人数です。

まずは、オリエンテーションとして、揖斐川下流部の地理的特徴について説明がありました。水郷地帯としてのこの土地の背景と、なぜ川が氾濫するのかについて地形を踏まえた説明をしていただきました。こうした説明があったことで、実際にヨシ原や周辺の水田を見たときにツバメのねぐらの背景にある地形や河川の流れ、周辺の土地利用が一つの景観の中で理解できたような気がしました。

今回、特に印象に残ったのは、無数のツバメが一つの生きもののように形を変えながら移動していく様子を伝えるために、子どもたちがよく知っている谷川俊太郎訳の「スイミー」という絵本の描写を使って説明されていたことでした。大好きな絵本のタイトルが出てきたことで子どもたちの表情が緩んだように見えました。

参加者は桑名市内の方が多く、その中には親子連れ２グループの他、高校生のグループもいました。この高校生のグループは、三重県立四郷高校自然科学部のメンバー5～6 名と顧問の先生で、普段支部の副代表の近藤さんがクラブ

▲観察場所の、揖斐川下流部のヨシ原

▲観察会の様子

活動の指導をされていて、今回も声をかけてもらったとのことでした。最近は高校の文化部の人数が確保できず廃部になることも多いのですが、支部のサポートを得ながら維持していきたいとおっしゃっていました。また、支部も次世代との接点を持つために様々なアプローチをされていることがうかがい知れました。

■ツバメの前にスズメがねぐら入り

揖斐川の堤防の上から河川敷を見下ろしてみると、ヨシ原ではスズメのねぐら入りが始まっています。支部の近藤さんによると、この時期のスズメは周辺の田んぼで稲を食べるために集まってきており、夕方になるとそのまま堤防を越えてヨシ原にねぐら入りをするそうです。スズメが稲を食べるのでスズメを駆除しろという声もあるそうです。しかし、スズメは稲を食べる一方で大量の虫も食べているので、これを駆除すると今度は虫の害がひどくなるのではないか。複雑に絡み合った生態系の中で、人間にとって都合の悪い一つの生きものを排除すると、どんな反動が帰ってくるかわからない、といったお話をされていました。

■ねぐら入りが始まる！

スズメのねぐら入りが収まった 18 時 30 分ごろからでしょうか、徐々に周辺の水田にツバメが集まりはじめ、水面ぎりぎりに飛行しながらエサをとっているようすが見られるようになりました。そのうちに、水田から堤防を越えてヨシ原周辺に移動し始めました。その他川の上流部からもいくつかの塊が川に沿って移動してきて、下流部に向かって移動しています。気が付くと上空には無数のツバメが集まりうごめいています。その様子はまさにスイミー。下流へと移動する一団もいれば、ヨシ原に入っていく一団もいました。もしかしたら、ねぐらの大きなポイントは今いる地点からもう少し下流に移っていたのかもしれません。それでも十分に迫力のあるねぐら入りを見ることができてみなさん興奮されていました。

■ねぐら入りが始まる前の時間帯の大切さ

ねぐら入りが本格的に見られる時間帯は、18 時 45 分～19 時 00 分のほんの 15 分くらいです。それまでの間、参加者からは「ツバメは今減っているのか？」「どの範囲から集まってくるのか？」「なぜねぐらを作るのか？」といった質問があり、支部の担当者が丁寧に答えていました。

そのやり取りを見ていて、実はこの時間がとても大切なのではないかと思いました。ねぐら入りが始まる前の余裕のある時間に、ねぐらがある河川や周辺の地形、土地利用についてお話を聞いたことで、ヨシ原やその土地に対する理解が深まり、他のどこでもないこの場所のねぐらの価値が伝わってきます。その結果「また見にこよう。」「ヨシ原を守ろう。」といった気持ちが生まれやすいと感じました。じっくりと支部の PR ができる時間帯もおそらくこの時間帯でしょう。

いざねぐら入りが始まってしまうと、周囲のことが目に入らなくなります。また、ねぐら入りが終わってしまうとすでに暗くなり、参加者は帰ることで頭がいっぱいです。ということは、ねぐら入りが始まるまでの数十分が唯一参加者としっかりコミュニケーションが取れる時間帯なのです。ねぐら入り観察会の成否は、この時間をどう過ごすかにかかっているのではないかと思いました。

■参加者の声

- 夕暮れ時に一か所で立ち止まり 1 時間も同じ景色をながめるという経験は、はじめてでした。
- 日没前後の 30 分は本当に景色が大きく変化していくのがわかって新鮮でした。
- 蚊柱のようにツバメが集まっている様子を見られてよかったです。

（普及室／箱田敦只）

◆探鳥会保険集計結果（2018 年 7 月分）

7 月は 66 支部からご報告をいただき、計 172 回の探鳥会が開催され、のべ 3,103 人が参加されました。

表 1. 7 月の探鳥会保険集計結果（2018 年 8 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	2	40	7	2	49
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	−	−	−	−	−
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	85	26	9	120
小樽支部	1	0	3	1	4
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	0	0	0	0	0
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	2	13	6	4	23
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	22	1	2	25
秋田県支部	4	37	9	4	50
山形県支部	1	8	0	2	10
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	12	2	4	18
北上支部	1	4	0	1	5
宮城県支部	3	39	15	6	60
ふくしま	2	46	0	4	50
郡山支部	2	33	2	4	39
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	3	0	8	11
会津支部	2	9	2	2	13
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	16	6	1	23
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	7	34	34	11	79
栃木県支部	8	99	54	22	175
群馬	7	59	32	20	111
吾妻	1	27	3	2	32
埼玉	2	55	12	12	79
千葉県	7	50	14	28	92
東京	11	241	19	56	316
奥多摩支部	7	91	15	24	130
神奈川支部	6	89	23	20	132
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	22	10	5	37
石川	1	13	7	3	23
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	3	41	1	6	48
軽井沢支部	1	8	6	1	15
諏訪支部	0	0	0	0	0
木曽支部	1	3	3	2	8
伊那谷支部	1	5	2	2	9
甲府支部	2	44	2	4	50
富士山麓支部	1	10	8	2	20
東富士	–	–	–	–	–
沼津支部	1	11	4	2	17
南富士支部	1	9	0	1	10
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	1	7	0	2	9
遠江	2	30	3	7	40
愛知県支部	7	68	48	18	134
岐阜	–	–	–	–	–
三重	0	0	0	0	0
奈良支部	3	56	7	6	69
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	2	8	4	4	16
京都支部	4	74	28	10	112
大阪支部	17	129	39	72	240
ひょうご	1	6	1	2	9
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	16	12	2	30
島根県支部	2	2	1	2	5
岡山県支部	2	31	21	7	59
広島県支部	1	13	3	1	17
山口県支部	1	7	4	1	12
香川県支部	1	19	0	1	20
徳島県支部	7	87	13	7	107
高知支部	–	–	–	–	–
愛媛	3	34	26	6	66
北九州支部	1	12	0	1	13
福岡支部	5	45	7	12	64
筑豊支部	4	48	5	4	57
筑後支部	2	6	26	4	36
佐賀県支部	0	0	0	0	0
長崎県支部	–	–	–	–	–
熊本県支部	–	–	–	–	–
大分県支部	2	22	14	3	39
宮崎県支部	2	21	10	2	33
鹿児島	1	20	9	4	33
やんばる支部	–	–	–	–	–
石垣島支部	–	–	–	–	–
西表支部	–	–	–	–	–
全国	172	2039	609	455	3103

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■秋期開催分「初心者向けバードウォッチング」の広報をしています■

2018 年度秋期（10 月～12 月）「初心者向けバードウォッチング」は、22 支部とともに 42 回開催します。実施概要をお寄せいただいた支部のみなさま、ありがとうございました。

これらの「初心者向けバードウォッチング」に関して、以下の広報を実施しますのでお知らせいたします。

（1）「初心者向けバードウォッチングのご案内」送付

９月下旬に、パンフレット「初心者向けバードウォッチングのご案内」を全国の約 65,000 名（小冊子申込者等）に送付します。

・「初心者向けバードウォッチングのご案内」PDF
https://www.wbsj.org/shibu/tancho/img/bbw2018aut.pdf
※PC 画面上で見やすくするため、入稿データから向きを変更しております。

（2）財団 HP 上に特設ページ開設

財団 HP 内に、「初心者向けバードウォッチングのご案内」として特設ページを設置します。

（3）一斉メール送信

10 月上旬に全国約 60,000 名（小冊子申込者等）に送信予定です。

▲秋期開催分「初心者向けバードウォッチングのご案内」表紙

■冬期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください■

2018 年度「初心者向けバードウォッチング」の冬期（2019 年 1 月～3 月）開催分の実施概要を募集しております。

８月 31 日付で支部事務局あてにご送付しました資料をご覧いただき、冬季に「初心者向けバードウォッチング」を開催される支部のみなさまは、10 月 15 日（月）までに実施概要をお送りください。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信９月号の電子メール版の購読者数は、先月から１名増えて 841 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表２．探鳥会スタッフ通信９月号電子メール版の購読者数（2018 年９月 12 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	長野支部	1
根室支部	0	軽井沢支部	1
釧路支部	2	諏訪	7
十勝支部	1	木曽支部	1
旭川支部	3	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	5	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	3
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	9
道南桧山	1	愛知県支部	44
青森県支部	1	岐阜	6
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	30
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	15
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
二本松	1	岡山県支部	28
白河支部	2	広島県支部	9
会津支部	2	山口県支部	16
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	15
茨城県	22	北九州	11
栃木県支部	59	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	5
埼玉	38	佐賀県支部	5
千葉県	24	長崎県支部	1
東京	67	熊本県支部	14
奥多摩支部	48	大分県支部	4
神奈川支部	25	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	2	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	1
福井県	10	合計	841

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

様々な地域で起きている災害の被害を心配しております。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

秋期の「初心者向けバードウォッチング」の実施概要をお送りいただいたみなさま、ありがとうございました。

紙面でもお伝えしましたように、秋期は 22 支部のみなさまと 42 回開催します。冬期に開催するご連絡を、既にいくつかの支部のみなさまからいただいているため、今年度の開催回数は昨年度を大きく上回ることになりそうです。たくさんの方々と探鳥会を開催できることを嬉しく思うとともに、改めて身の引き締まる思いです。

冬期開催分はただいま募集中で、実施概要の締め切りは 10 月 15 日です。開催のご検討をいただけますと幸いです。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 66 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2018 年 9 月 19 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org